

# アマルフィへ

\*

日下部芳志 ● 日下部皮膚科医院

最初に Amalfi という文字を見たのは、今から 30 年程前、ターナーの小品集 Vignettes Drawings のリトグラフ (1886 年製作) を偶然手に入れた時だった。美しい帆船の絵がインクと水彩で描かれていた (写真①)。私は初め船の名前だと思ってしまった。まだ南イタリアに在る景勝地とは知らずに。それからしばらくたって、それは地名で有る事、ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナーは英国の画家で夏目漱石の小説『坊っちゃん』の中で「どうせ持つならターナーの絵の一枚……」と出て来る程の巨匠で、英国には彼の為のテート・ギャラリーが有ることを知る。実際 14 年程前に英国に行った時は、じっくりその美術館に入り浸ってしまった。その中に私の所有する物と同じ物が一堂に会する部屋があった。学芸員に自慢げに「これを持っている」と言ったら、喜んでいろいろ教えてくれた。しかし、その頃の一番のお気に入り、燃えるような太陽が砂塵の中でかすみ、駱駝を巻き上げている『砂嵐』だったので、アマルフィの事は忘れていた。

それからまた年月がぼんやり過ぎて行った。世界のあちこちも旅をした。イタリアにも 3 回程行った。しかし、南はローマまで。ナポリ周辺にはそれこそ 40 年程前学生の時に行ったきりだった。イタリアに 3 年ほどいらした方に聞いた話では、「ナポリより南はアフリカと思え、行ってはいけない」と、イタリア人に言われていたそうだ。その先の南に、いつしか、あの絵のアマルフィへ、行ってみたいと強く思いはじめていた。

そして、2013 年秋、ついに実行の時が来た。

昔程体力に自信がなかったので、かなりゆるやかな計画を立てた。まずパリへ、そこからナポリ、そして、アマルフィだ。ナポリまでは順調だった。サンタルチア地区のホテルから見るベスビオス火山とナポリ湾は、確かに美しかった (写真②)。翌日はいよいよアマルフィへ船で向かう、あの景勝地を、

ターナーの描いた所は本当に在るのだろうか……、その晩は、なかなか眠りに就けなかった。

翌朝、外は土砂降りの雨だった。ホテルから船着場までは車で 5 分、雨の中切符売場に並んで、アマルフィまでと言うと、「カプリまでしか船は行かない、後はカプリで切符を買え」と、しかたがない。雨の中乗船。不安がよぎる。それでも高速艇は 50 分程でカプリに到着。

空気が違う、明るい。雨もその時は上がっていた。下船すると監理官風の男が来た。訳を話すと、「アマルフィ行きは午後 3 時過ぎだから、荷物を預けてカプリを楽しめ」と。不安は払拭され、むしろ本当は寄ってみたかったカプリが楽しめるかと心弾んだ。荷物を預け、切符を買い、タクシーの運転手と交渉して、全て 100 ユーロ (約 1 万 3 千円) で交渉成立。絶景の地 (写真③) である。アナカプリ (カプリの上半分) と小さな湾、大きな湾と十二分にカプリを堪能した。途中丁度昼食時スコール。カプリはローマ時代から皇帝の別荘地が在った位で、今は、フェラーリ氏、ムッソリーニ家の末裔、ソフィア・ローレン等のスターに有名歌手等々、世界の VIP の別荘地だ。ゆったりカプリを楽しみ、手荷物が見える (我々のトランクが無造作に置いて有る、昔のカプリならあり得ない光景だ) レストランでレモンのアイスを頂きながら、船の出発を待った。今度はナポリと違って、船まできちんと荷物を運んでくれた。カプリはやはり観光客に優しく、人々にもゆとりがあり豊さも感じられた。但し水は対岸のソレントから海底パイプでもらうまで、雨水だったと。

船はそのソレント半島の断崖絶壁を左手に見ながら、一路アマルフィへ。半島の感じは正に絵そのものだ。切り立った岩山の山頂付近には雲や霧が懸かっている。途中ポジターノへ寄港 (写真④)。今は欧州の人々に大人気の地と聞いていたが、船着場にはタクシーはおろかポーターさえ見え無かった。

アマルフィは大丈夫かなと少し心配になった。

アマルフィが見えて来たその時、断崖の上に、あの絵と同じ塔がはっきり見えた。本当に在った、しかも教会の鐘楼も（写真⑤）。初めての地なのに、なぜか少し懐かしい様な気がして嬉しかった。船着場にはポジターノとは違いタクシーもきちんと在った。セント・カテリーナと言うと自慢げにアマルフィで一番の宿だと言った。

アマルフィに関して言えば、本当に小さな町で、鐘楼と教会を中心にして（写真⑥）、一周りするのに一時間もかからなかった。買い物をして、小さな店で昼食のマルガリータとレモン水を頂く、ついでに頂いたレモンケーキ（Delizia al Limone）は絶品だった。外のテーブルで食べていると、流しの兄ちゃん達が5人来て、「ボラーレ・カンターレ……♪」と演奏し出した。「人生は一瞬さ、でも、ゆっくり、ゆっくりネ」と言われている様な気がした。時間を持って余っていたので、タクシーでアマルフィ周囲を一周りしてもらった。山の上のラベッコの町に行くとすばらしい絶景を見せてくれた。またそこには天空のプールを備えた良いホテルも在った（写真⑦）。運転手に聞くと、例の塔は「サラセンの時代（7世紀）から在った」と教えてくれた。

夜、サレルノの方まで続く夜景（真鶴半島から見える夜景にも似ていた）を眺めながらテラス席で食事をした。沖には煌々と明かりを照らした客船が横切って行く。ピアノは、ゆっくり、それとなく、サンタルチアを演奏している。と、ポツポツ雨が降って来た。娘が、「曲が“雨に唄えば”に代わったね」と言った。本当に気の利くピアニストだ。その内、風も強くなり、水平線の上に雷までピカピカやりだし、まるで、船上の様になってきたら、さすがにスタッフが室内に席を移してくれた。そう言えば、夜

から朝にかけて大雨と雷が有り、昼間に晴れる天候が多かった。部屋に戻って英国のガイドブック「アマルフィの内と外」を見つけた。それによると、9世紀からアマルフィには海軍が有り、810年には、ビザンチン帝国の要請にて20隻の軍船を出した記録が有ると。そこに13世紀頃の帆かけ舟の図が有り、正にターナーのそれと同じだった。200年程前に、ターナーがこの地を旅した頃はどの様であったか。我々もナポリからここまで来るのに少し苦労したが、当時の比では無いだろう。イタリアの諺に「ナポリを見て死ね」と有るが、そこまで来たら、ぜひアマルフィまで見てほしい。

帰国後、上野で「ターナー展」をやっていた。もう一度勇んで会いに行った。

追記：イタリアでサッカーのテレビ中継を見てハットした。選手の動きも速かったが、観客のどよめきは、まるでローマ時代の剣闘士の戦いをコロッセオで観ているかのようだった。またニュースで難民が島上陸直前に難破して多くの犠牲者が出たと言っていた。シリアやアフリカの難民が、対岸のアフリカから最も上陸し易い欧州の入口として、ここに集中しているらしい。その入口を閉ざさないイタリア人の、異民族（人間）に対する寛大さ、懐の深さを感じ入った。今はそれ程良い経済状態ではなさそうなのに。そう言えば、親切にして頂いたピッツェリアの家族もアラブ系だった。サラセンの昔から、ここは多民族でお互い助け合って天国の様な所になって来たのかも知れない。19世紀の詩人レナート・フチャーニに「アマルフィの人々は死んでも、自分が天国にいると気が付かないだろう。なぜなら彼らの日常が天国そのものだから」と言わしめている。

（写真は巻末110ページ参照）

# 私の地域活動～藤沢市医師会女性医部会～



小竹伊津子●コタケ皮膚科医院（藤沢市）

いつもお世話になっております。藤沢市にて平成6年より開業しております小竹です。平成6年3月からは片瀬海岸1丁目、その後平成14年4月より片瀬3丁目に移転しました。距離にして僅か100mほどの移転でしたが、引っ越しの楽しさも煩わしさも十分に体験しました。家族は夫と娘2人の4人です。今回は、私の地域活動・藤沢市医師会の“女性医部会”について話をさせていただきます。

神奈川県皮膚科医会ではいつも貴重なご講演を頂きありがとうございます。また“Joy Derma Club”は女性ならではの視点でしょうか、テーマも興味深く毎回楽しみにしております。現在多くの各郡市医師会では“女性医師の会”が出来、夫々に多様なご活躍のことと存じます。藤沢市医師会でも6年程前から名称“女性医部会”が発足致しました。当時の医師会長の英断のもと誕生したものです。担当理事（藤沢市医師会初の女性理事）のもと初代幹事8名（開業医・勤務医・多科目混成）が招集されました。現在藤沢市医師会は会員数507名、うち女性医師は約80名。現在60名の女性医師が“女性医部会”に入会しております。“女性医部会”に男性会員はおりませんが、世代や専門分野を越えて医部会は楽し

く活動しております。

会の発足に当たり、定款・規則の制定等慣れない作業に四苦八苦しました。第1回目の総会は平成20年5月29日。まずは沢山の先生に賛同・入会し参加して頂き、親睦＝顔の見える関係を作ろうとミニ講演会を含んだ懇親会を企画しました（藤沢市医師会全会員の先生方にご協力を頂き、初回は神経内科「鬱と痴呆」、2回目は外科「乳癌」、3回目は整形外科「更年期・骨粗鬆症」）。その後は“ホテルを見る会”やインターコンチネンタルで和やかにpartyをしております。医師会のミニ版とまでは申しませんが、異なる専門科目の先生が参加され、診療の話・診診連携・病診連携と仕事の話は広がります。そして趣味・家事・育児・介護と多様な分野での貴重な情報交換ができる会です。いつも清々しい菅千束先生にもご多忙の中毎回参加して頂き、楽しい時間を共に作って頂いております。

また、何か地域医療・社会的参加ができる事はないかを皆で探しておりました。初めは整形外科医会の市民講座の軒を借りての参加でした。そんな中、幹事から女性医師が女性の健康を守る為に子宮頸がん予防ワクチンの啓蒙をしてはどうかとの提案が有り、医部会の仕事として動き始めます。癌の予防ができる唯一のワクチン且つ高額な事（計3回接種で



藤沢市医師会女性医部会懇親会



種部恭子先生講演会後の情報交換会（H24）

4万5千円～5万円)・公費助成の点で注目はされるも認知度は今ひとつ。まず、藤沢市医師会員全体にこの情報を周知したいという事で、横浜市立大学付属病院化学療法センター長准教授の宮城悦子先生にご講演頂きました。偶然にも当時の藤沢市長もこの子宮頸がんワクチンの公費助成に理解を示され、藤沢市では公費助成が始まります。その後も宮城先生には医療関係者・学校関係者・行政関係者・一般市民にと対象を変えながら延べ3回のご講演を頂きいずれも大好評でした。

また富山県での男女共同参画フォーラムに参加した幹事から是非にこの提案で、富山県医師会理事・婦人科医・種部恭子先生にご講演頂きました。演題は『若者の性の現状から～私たちにできること』。若者の性・性教育の現状をも包括した子宮頸がん予防ワクチンの重要性・啓蒙についてのご講演でした。対象は医師・医療スタッフ・教育者・行政関係者。この講演会も反響が強く、翌年に藤沢市教育委員会にて種部先生の講演が開催されました。

その後、残念なことに子宮頸がん予防ワクチンの副反応がクローズアップされ、接種者は急激に減少

します。その中、平成25年度藤沢市医師会で社会保険相模野病院婦人科腫瘍センター長上坊敏子先生の講演がありました。偶然にも上坊先生が相模原市医師会の“女性医師の会”の会長でいらしたことから今年2月に開催された“相模原市医師会女性医師の会”主催の市民公開講座(テーマ「糖尿病」)に伺いました。私たちが新しい課題を見つけて行きたいと思います。日医の女性医師支援事業として、地方ごとに医師不足・女医の支援の様々な取り組みが行われています。将来私共も藤沢市の女性医師支援のお手伝いできればとも考えております。

私は個人の皮膚科開業医ですので日常は皮膚科診療が主で、夜間休日診療所・検診・ワクチン・学校医といったいわゆる医療の公共事業に関わる機会はほぼありません。“女性医部会”に参加することで内科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科等他科の先生方と今まで以上にお話しする機会も増えました。多くの方に出会えた事、そして多くの新しい知識や感性に出会えた事がこの医部会に参加した私のJoyだと思っています。

## おどろきモモの木クリニック・パートⅩⅨ



宮本秀明●宮本皮フ科(横浜市磯子区)

### 1. ミッション インポッシブル

「おはようハント君。さて今回の君の使命だが、駅前寂れた皮膚科クリニックに患者を呼び込み、院長のたるんだ根性を叩き直すことにある。例によって君もしくは君のメンバーが捕らえられ命を失うことになっても当局は一切関知しない。なおこのメッセージは5秒後に消滅する。成功を祈る」シュシュシュシュー(煙と共にDVDが消滅する音)……と、たとえトム・クルーズが現れたとしても、

再生は殆ど不能のM皮フ科の運命や如何に。

朝、診療所のシャッターを開いて患者を待つこと×10分、見渡せばM皮フ科の静寂な待合室は「永遠の0」で、「にんじャりばんばん」患者が来るのは別次元のことである。診察室で1人佇みながらふと思う。ここの場合は「診察室」が「待合室」なのだ。院長が患者を待ち続けるのだ。

M皮フ科が繁盛しないのは院長が無能なせい、とずーっと思っていたが最近はそれだけでもない様

な気がしてきた。クリニックの前を通り過ぎる人数が明らかに数年前よりも減っているのだ。M皮フ科は某商店街の中にあるが、この商店街自体が低迷状態で年々歳々シャッター化が進んでいる。来るべき客が「キリン」や「犬」のマークの電子カードを嬉しそうに手にしながら、近くの大型ショッピングセンターに流れてしまい、某商店街を素通りどころか迂回しているのである。

## 2. ワオ〜〜ン

某大手スーパーの電子マネーの申し込みに行ったら受付嬢から「お客様なら『じじい××カード』がよろしいのでは」と言われた。客に向かって「じじいカード」とは失礼な!と思ったが、よく聞けば55歳以上の客に特典があるという「GG（ジージー）カード」であった。それなら「ばばあカード」はあるんですかい、と聞きたくもなったが、もっとマシな呼び名はなかったのかね。

## 3. 軍艦マーチ

平成25年8月に進水式が行われた護衛艦「いずも」の写真を見て驚いた。法律では日本は空母を所有してはいけないことになっているので、防衛省では護衛艦、巷では「ヘリ空母」と呼んでいるが、外国からみれば、こりゃ殆ど空母だよ。全長248mで、ヘリは14機搭載可能で同時に5機発着可能で、第2次大戦の真珠湾攻撃時の旗艦「赤城」（空母）は全長261mだから13mしか変わらない。戦闘機16機を含めて計60機を搭載していた「赤城」は他の戦艦とともにミッドウェイ海戦（完敗です）で沈められてしまい、その後は日本は劣勢を回復できぬまま敗戦へ向かった。

護衛艦「いずも」の建造は磯子区の某ドックで行われた。戦争が始まったら軍事施設は真っ先に狙われるので磯子区の某所にあるM皮フ科も爆撃のどばちりを受けるかも知れぬと心配になったが、近代兵器の発達で攻撃はピンポイントで行われるので、爆撃は免れるだろう……というような問題ではないのだが。

## 4. オリンピック採用種目

レスリングがぎりぎりセーフとなった。野球は残念だったが、ソフトボールと野球の差がわからぬ人

は世界中に沢山いるのだろうし、私にもよくわからない。子供の頃は女性が下手投げでやる球投げがソフトボールだと思っていた。

しかし冬季オリンピックとはいえ「床磨き」がなぜ競技種目か小生には理解できぬ。昔は綱引きや玉入れまで競技種目だったのだから、不思議でもないのだろうか。

こんな競技より大相撲を競技種目に加えたらどうか。「採用される訳ない」と考える人もいらっしやるかも知れぬが、ある時期は横綱は2人ともモンゴル出身、大関5人のうち3人まで外国人、3人のうち2人はヨーロッパの出身だったこともあり、すでにworld wideになっているのである。日本相撲協会が運営している「Grand Sumo」というHPでは力士の紹介（得意技、出身地、所属部屋等）が「四股名」→Ring name、「星取表」→Tournament recordsという訳とともに紹介されている。是非とも大相撲をオリンピック競技に加えるべく応援したい。

## 5. S嬢の真実

ある日M氏にS嬢からメールがきた。「授業いやだよお、予習大変だよお」と。またかと思い、返信せず放っておいたら今度は「授業中うるさい、と怒られました。先生怖いよおー」とメールがきた。M氏は呆れかえって返信した。「お前、教師だろうが」……。

教師と言っても時間給××円の非常勤であり、授業時間に対してだけしか報酬が出ないのでいくら居残りして試験問題作成や採点をしても年収は微々たるもので、とても暮らせない。昼食をちくわで食いつないでいた時期もあるほどだ。

常勤職になるには面接試験だけでなく模擬授業の実技もあるので、授業が下手なのがバレてしまう。こりゃ、永久に非常勤だなー、と諦めかけていた頃、年が明けて某高校から「常勤職で採用」の通知が来て腰が抜けた。柔道初段と陸上部部活経験が有利に働いたようだ。捨てる神あれば拾う神あり、である。授業内容はともかく、愛想の良さで面接官を丸め込むのはうまいのかも。そういえば大学に入るとAO入試とかいう、内申書と面接だけで入れる制度を利用して大学生になったしねー。

こんな調子で男を籠絡して早く結婚してくれりゃいいんだが。

## 6. 馴染みの週刊誌は何処？

某コンビニに週刊誌を買いに行ったが、本棚に目指すものはない。売り切れてしまったのかと思い、更に探したがやはり無い。棚の端の方に「アダルト」と書いた異様な雰囲気のコナーにたまたま視線を投げるとその中に目的の雑誌があったので『三十路××』『人妻△△』という目を覆いたくなるような写真表紙の雑誌の中から目的の雑誌をつまみ上げ、レジに持っていった。ところで『週刊文春』『週刊新潮』はいつからアダルト雑誌に分類されるようになったのかね??

## 7. 某受験生

30年前の医師国家試験は全科目が対象ではなくしかも2日間だけだったので、内容が本当に解って無くても詰め込み暗記でなんとかセーフになった人もいた。しかし今は全科目の問題を3日間に亘って解かねばならぬし、踏むとアウトになる「地雷問題」というのもあるのでマジにやらねば手痛い目に遭う。

私の友人の友人のご息子は「見慣れた顔が試験場にいると気が散る」といって同級生の殆どが受ける△△市の試験場から340km離れた縁もゆかりもない××市の試験場をチョイスし、試験の2日前から滞在したホテルでは「受験は平常心だー」と言って自室にこもって1歩も出ず、レストランにさえ行かなかった。

自室から出ると嫌でも目に入ってくるミニスカ、巨乳は確かに煩惱の源ではある。

ホテルに持ち込んだ物といえば、電気釜、こしひかりの5kg米袋、レトルト食品、ひじき、塩昆布、カップメン、電気スタンド、大量の参考書で、これを1つの大きな袋に入れて<sup>おおくにぬしのみこと</sup>大国主命みたいにかついで下宿を出発した。

ホテルに着くまでの行く先々で奇異な目で見られたが、普段から奇異な目で見られるのに慣れているのか平然としたものであった。大きな袋を担いでホテルのフロントを無事に抜けられるかと問うてみたら「1ヶ月前に予行練習したよ」との答え。既にフロントマンとも顔なじみになっていたそうな。確かにそんな目立つ格好をしていればすぐ覚えられてしまうだろう。

## 8. 卒業～？

1年毎に廻ってくる、年報に随筆原稿を載せる手間は決して「ヘビーローテーション」ではない。しかし「アイウォンチュ～、アイニードユー？」と問われると果たして自分の原稿がこれからも必要とされているのか疑問が生じる。折も折、昨年末のNHK紅白でO島U子が突如宣言するのを見て小生も悟り、ここに宣言する。

「私、宮本はおどろきモモの木クリニックを卒業致します」……と言う訳で、次回の「おどろきモモの木クリニックPart20」で最終回となります。……と言ったら「まだやっとするのかい」と呆れられたが、次回の「Part20は最終回」は本当にホント。怒涛の最終回をお楽しみに。